

事例3

< 事例概要 >

肺動脈カテーテル縫込み

- ① 70 歳代、女性、身長150 cm台。僧帽弁閉鎖不全症、狭心症の患者。僧帽弁形成術、冠動脈バイパス術を施行。手術3 日前より抗血栓薬を休薬。
- ② 右内頸静脈より肺動脈カテーテルを挿入し留置。
- ③ 術中、下大静脈カニューレ挿入部、右房切開部、上大静脈カニューレ挿入部に糸掛けを行った。外科医は、閉胸前に縫込まれていないか確認するために上大静脈カニューレ挿入部を触診で確認。
- ④ 術後2 日目、集中治療室で肺動脈カテーテル抜去中、約20 cm引き抜いたところで抵抗があり、胸痛を訴えたため中止。直後に胸腔、心嚢、前縦隔ドレーンより暗赤色の血液が大量流出し、血圧低下。緊急開胸止血術で、下大静脈カニューレ挿入部と思われる部位に右房壁欠損を認めたため縫合閉鎖。しかし、術後も自己心拍が得られず、同日死亡。
- ⑤ 死因は、右房壁損傷による出血性ショック。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。